

2021. 9. 5

トンボやイナゴが飛び交い、黄金色に染まった稲穂は重そうに頭を垂れ、田んぼは実りの秋一色です。コロナ禍にあって、みんなで賑やかに稲刈りができないことが残念です。心地よい風、夏を惜しむセミの声、咲き始めた秋の野草にいつも癒される里山の景色が広がります。



シオカラトンボ



マユタテアカネ



ショウリウバッタ



オンブバッタ



コバネイナゴ



オニヤンマ



ノシメトンボ



秋の生きもの

キアゲハ



ヒカゲチョウ



オオカマキリ

秋の草花



アキノゲシ



ハハラアザミ



ゲンショウコ



センニンソウ



クズ



ヤマホトギス



アキカラマツ



オトコエシ



アキノタムラソウ



ツリガネニンジン

<季節メモ> 秋に思う

クリの実がイガから艶やかな頭をのぞかせている様子に秋の訪れを感じます。ほっこり甘いクリは、茹でる、栗ごはんや栗きんとん、渋皮煮、和・洋菓子・・・味覚の秋の一番乗りですね。色づき始めた柿もまもなく旬を迎えます。生食、干し柿、柿の葉茶、柿の葉寿司など食用のほかに、青い渋柿は染料や塗料としても利用されています。ほかに、アケビやエビツル、ガマズミなども季節を味わう木の実です。ドングリの中では生食もできるシイ（スダジイ）の実が代表的です。これら木の実は、食用のみならず、様々な方法で昔から生活の中に取り入れられてきました。

秋の実りをいただきながら、昔の人の知恵に触れてみるのもいいですね。

里山で縄文体験はいかがですか。

写真・編集：晝間

